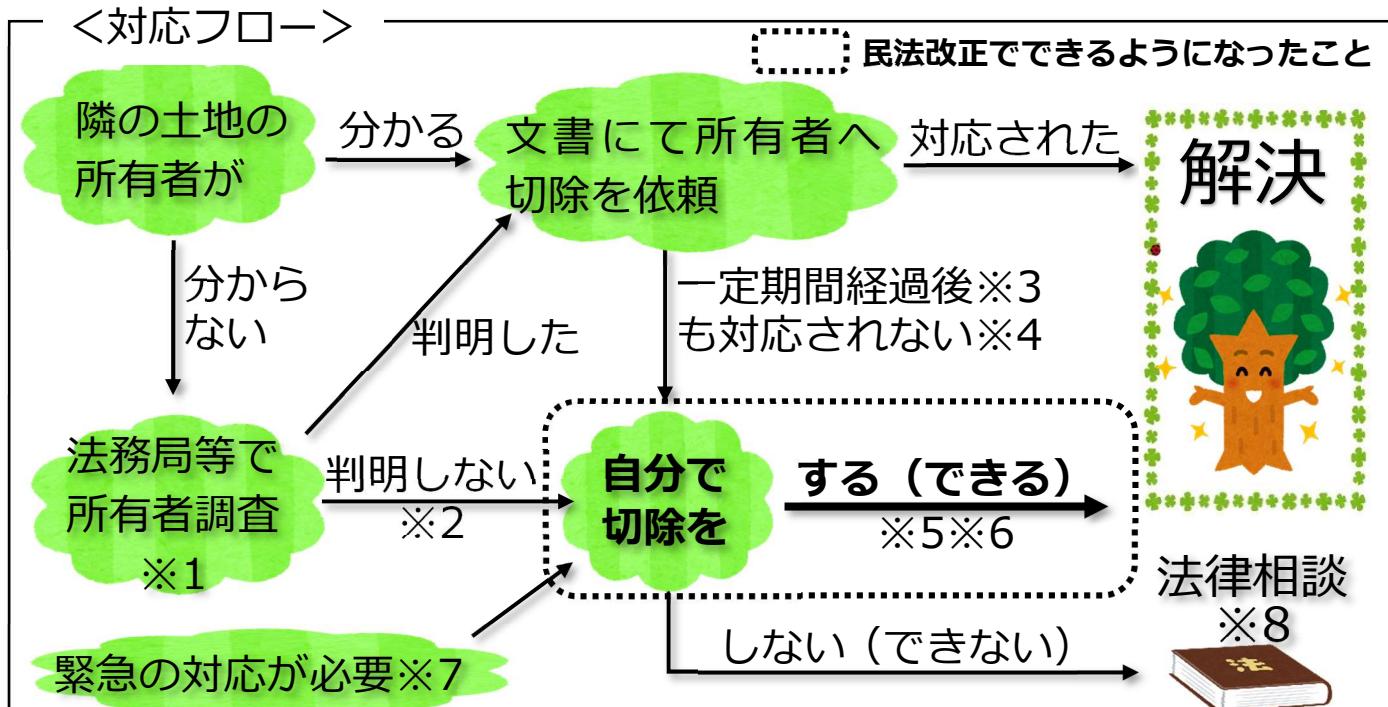


隣地の竹木の枝の越境にお困りの方へ

■ 基本的には相手方に依頼又は承諾を得た上で切除するようにしてください。ただし、民法改正により一定の条件を満たせば、自分で越境している枝の切除も可能となりました。次のフローを参考に対応してください。



※1 調査の一例としては、法務局（豊田市常盤町 1-105-3 電話 0565-32-0098）の窓口で、土地の所有者の氏名・住所を調べることができます（有料）。

※2 「判明しない」には、調査した相手方へ郵送しても届かない場合を含みます。

※3 「一定期間」とは作業に必要な期間です。一般的には依頼した日から 2 週間程度です。

※4 「対応されない」とは相手方から応答がないときや対応を拒否されているときです。

※5 切除が可能な範囲は、越境し、かつ何らかの損害を受けている又は受ける可能性のある部分のみです。それ以上に切除したい場合は、相手方に依頼又は承諾を得た上で行ってください。

※6 相手方に費用負担を求める場合は、双方で協議してください。

※7 一般的には、自分の敷地に竹木が倒れこみ建物等に被害が出ている又は出る可能性がきわめて高い場合などが考えられます。

※8 市役所市民相談課(0565-34-6626) の弁護士相談(要予約)や法律事務所などでご相談ください。

※民地間の竹木の枝の越境に関しては、民事上の問題となるため、行政に切除や指導等の権限はありません。

～民法改正（第233条）について～

これまでの民法では、越境した隣地の木の枝をその所有者が切除しない場合には、訴訟を提起し強制執行の手続きをとるほかはありませんでしたが、令和5年4月1日施行の民法改正により次のいずれかの条件を満たせば、枝を自ら切除することができるようになりました。

- ① 竹木の所有者に越境した枝を切除するよう催告したが、竹木の所有者が相当の期間内に切除しないとき
- ② 竹木の所有者を知ることができず、又はその所在を知ることができないとき
- ③ 急迫の事情があるとき